

(4) 令和3年度の学校評価

ア 自己評価結果等

<p>本年度の重点目標</p>	<p>【重点目標1】安全で安心な教育環境を整備するとともに、幼児児童生徒一人一人の実態に応じた教育環境を設定し、適切かつ合理的な配慮のもと、専門性の高い指導及び支援を推進する。</p> <p>【重点目標2】幼小中高が連携して一貫・継続した指導を実践する。教育課程を介して聾学校をはじめ、地域の学校や関係諸機関との連携を拡充し、キャリア教育、交流及び共同学習を推進する。</p> <p>【重点目標3】校務の簡素化やシステム化を図るとともに、情報技術の導入による校務支援を試行することで業務改善を計画的に進める。</p>
<p>部、分掌</p>	<p>自己評価</p>
<p>幼稚部</p>	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3学級の担任で情報共有をしつつ、発達段階に合わせた指導ができた。同じ教材でも、一人一人に合わせ、ねらいに沿って使い方や内容を変えるなどの工夫をした。 <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例年より少ない日数ではあったが、居住地域の園との交流や学校と園との交流が実施でき、幼児にとっても保護者にとってもよい経験となった。 ・幼児期におけるキャリア発達とは何かを意識し、日頃の挨拶や当番活動などの指導をした。 ・乳幼児教育相談では、東三河5市の母子保健担当保健師への説明会を実施した。早期教育の必要性について知っていただき、実際の幼稚部の活動風景や乳幼児教育相談の様子を見ていただいたことで、月齢の低い乳児の紹介も増えてきている。 <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育系サーバーを活用し、部会でのペーパーレス化を実施した。資料の印刷、配付、記録の作成などの手間を減らすことができた。 ・行事では、幼稚部と教育相談とで協力して教材や道具などの作成をした。
<p>小学部</p>	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導課題が見つかったときなどの機会に、児童の指導や支援に必要な内容について、部職員で研修を実施した。補聴機器などの基本的なこと、授業に必要な視点、生活指導に関する課題などを学び合った。また、日常的にも児童の指導や支援について職員同士で情報共有をしながら指導、支援にあたることができている。言語環境づくりについて課題が残っているため、一層意識をして進めていきたい。 ・授業研究実践を通して、職員一人一人が考えをもち、意見を出し合うことができた。職員全員で授業力を上げられるように、今後もそれぞれの考えを出し合いながら授業を練り上げていきたい。 <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動や交流の前後に、児童が目標設定と振り返りを行い、次にどのようなことができるか、どのような自分でありたいかを考えられるような指導、支援を積み重ねている。今後も継続をしていきたい。 ・県内の聾学校とのリモート交流をスタートすることができた。今後は、さらに相手校と連携をとり授業における共同学習の実現を目指したい。 <p>【重点目標3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部会のペーパーレス化、行事と活動を関連付けて業務を計画的に進めることなどに取り組んだ。今後も使用、活動の目的に合わせて、効率のよい業務遂行を実施したい。
<p>中学部</p>	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部研究で、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業を工夫するために、ワークシートの活用という観点から、教科間で連携を図ることができた。 ・発音指導や聴力測定など聴覚障害教育に関わる研修を中学部生徒のニーズに合わせた内容に絞り込んで行うことができた。 <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD活動として、野外で海岸の清掃活動を行った。生徒同士で、ごみの分別まで協力して行うことができた。 ・「モノづくり魂浸透事業派遣講座」を活用し、造園業の仕事を体験することで働くこ

	<p>との意義や将来について考える機会を設けることができました。</p> <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部だよりや研修の進め方などの業務については合理的な方法に変え、スリム化できた。サーバーの活用等で、業務の効率化は進んだが、教科書の変更に対応するために教材研究の面では計画通りに業務量を軽減するまでには至らなかった。
高等部	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生の英語と数学において習熟度別学習を行い、実態に合わせた指導を行った結果、標準学力検査（数学 I）において 75%～95% の正答率を得ることができた。英語については、発展的な内容まで取り扱うことができ、実用英語検定準 2 級を視野に入れられるほど英語力を高めることができた。 2年生、3年生において類型別学習を行い、学習指導を進めた結果、アカデミーコースでは、実用英語検定準 2 級に合格させることができた。また、学習基礎コースでは、コンピュータ関係の資格取得や就職試験に向けた面接指導を踏み込んで行うことができた。 教育課程 B における合わせた指導について見直し、実態に合うよう変更、改善を試みた結果、職業能力開発校に合格させることができた。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のメンタル面を支援するためにスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を取りながら支援を続けた結果、支援を受けた生徒の連続した欠席が減り、学習意欲の向上につながった。 新型コロナウイルス感染防止を行いつつ、できる範囲で従来の学校間交流に加え、名古屋聾学校専攻科と授業交流を行った。その結果、笑顔あふれる充実した時間を生徒たちは過ごすことができた。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 部会資料のペーパーレス化を行うとともに教材のペーパーレス化、板書の ICT 化を進めた結果、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として行った時差日課において、授業時間が 10 分少なくなるという厳しい状況の中であっても、ほとんどの授業で遅れが生ずることなく、指導を進めることができた。
総務部	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの感染状況に応じながら、式典を 2 部に分かれて行う方法と、全校で行う方法で実施した。特に新型コロナウイルスが流行してから、初めて実施する全校での式典だったが、感染対策を講じて、安全に配慮しながら実施できた。今後も感染状況を確認しながら、柔軟に対応していきたい。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部、校務会の資料をペーパーレス化し、紙の使用量や印刷時間を削減した。 年度当初に年間の校務会の予定を立て、仕事に見通しをもてるようにした。 個々の業務体制に合わせた仕事の分担や、経験者と初めての先生の複数で同じ仕事をするように分担し、仕事を覚えたり一人の先生が抱え込んだりしないようにした。 式典の字幕の投影方法について、新たにモニターを使用したり、字幕を作成するソフトを替えたりして、機器の準備や操作の負担を減らせるように取り組んでいる。
教務部	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> 国や県からの対応策を受け、管理職の指導の下、コロナ禍でも最大限の教育効果が発揮できるよう授業や授業を組み立てていくことができた。中、高等部においては、時差日課を行ったが、授業の遅れがないように教科担任と連携をとり、調整を行った。 使いやすさを考えながら、図書室のレイアウトを変更し、幼児児童生徒が本を手に取りやすくなった。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部とも、新型コロナ感染症対策をしながらの授業交流や、Zoom でのリモート交流を実施できた。特に、リモート交流では、児童も楽しみながら実施できた。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行政文書への回答など外部への提出文書一覧表を作成し、提出時期に見通しをもてるようにするとともに担当者が変更になっても対応できるように取り組んでいる。

<p>指導部</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練を継続して実施することで、子どもたちのシェイクアウト行動や職員間の連絡体制の定着を図ることができた。まだまだ状況に応じた細かな課題は見られるが繰り返し訓練を重ねることで更に深めていきたい。 ・防災ヘルメットの過不足等を確認し再配分を行ったことで、災害訓練時のヘルメット着用を促し、防災意識を高めることに繋がった。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートを年2回実施し、問題の早期発見と教員間の情報共有を行うことができ組織的な指導に努めることができた。また、情報モラルに関する指導として、携帯電話会社に講師を依頼してケイタイ・スマホ安全教室を実施した。今後も、子どもたちの発達段階に合わせた、開発的・予防的な指導を行っていきたい。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレットパソコンを活用し、校務会資料のペーパーレス化を行った。 ・校務の業務内容をリスト化してことで、実施時期や内容、担当等を共有して分掌全体で把握しながら協力して計画的に進めることができた。
<p>保健体育部</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくルームの利用基準など、感染症対策として全校で共通理解を図ることができた。感染者が出た時の消毒の方法を、教務部や指導部と連携を図りながら再確認した。防護服の着脱方法も含め、今後実践で生かせるように提示を工夫していく。 ・緊急時の対応やAED、心肺蘇生の実践をとおして、各部の実情に応じた研修を深めることができた。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を講じながら、体育大会を計画し実施することができた。幼児児童生徒の生き生きとした姿を、保護者とともに全校で感じ取ることができた。 ・マスク、手洗い、換気など基本的な感染対策の継続を喚起することで、大きく体調を崩す子どもたちはいなかった。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健や給食といった専門的な業務も含め、保健体育部全体で情報を共有し役割を分担することができた。 ・校務部会をペーパーレスにすることで、資料の閲覧がしやすくなり情報共有を深めることができた。
<p>進路指導部</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大により昨年度縮小したインターンシップや産業現場等における実習を、今年度は実施することができた。時期や事業所により、延期をする場合もあったが、その都度新しいスケジュールを生徒に伝え、予定していた実習を行うことができた。 ・実習や見学会を通して、コミュニケーションや進路選択の課題が明らかになる生徒がいた。担任と連携し、個別に面談や練習をするなど対策を講じることができた。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染状況を考慮しつつ、保護者向け進路勉強会、進路について考える会などの行事は実施することができた。就職や福祉就労に特化した勉強会だけでなく、幼稚部や小学部の保護者に向けた勉強会も計画した。 ・卒業後の生活拠点も考慮する必要がある生徒について、障害者就業・生活支援センターや相談支援専門員と連携し、指導を進めることができた。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の分掌と兼務する職員もいたが、空き時間を利用して会議をしたり、資料を回覧したりすることで、円滑に業務を進めることができた。

<p>研修・自立活動部</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立活動研修については感染症拡大防止対策を取り、事前アンケートをもとに研修項目や内容を検討した上で演習や意見交換を中心に4講座実施した。 ・自立活動だよりについては、最新情報の周知や基本的な内容の提示方法の工夫を心掛け改善できた。 ・教科・分野研では、各グループの記録の回覧が徹底できなかつたので、他グループの研究内容についても把握して日々の教育活動に生かせるようにしたい。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校での式や行事では、年齢に合わせた情報保障が十分にできていない面がある。部の実態に合わせた情報保障の方法を考えたい。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務用ファイルを活用して各係の仕事を進める中で、新しい担当者でも分かりやすいよう追加訂正をし、昨年度研修対象者がいなかった研修についても作成している。
<p>情報部</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GIGA スクール構想に沿って児童生徒用タブレットPC や大型ディスプレイの活用を進めた。 ・臨時休校等におけるオンラインによる学習支援の体制を整えた。 ・ライブトーク（音声を文字化するシステム）の研修や様々な場面での活用を進めた。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペーパーレスによる会議及び研修を推進し、印刷にかかる時間を削減した。 ・全日本聾教育研究大会準備と連携できるように担当を割り振った。 ・業務を計画的に進めるための目安に、勤務時間集計シートを作成した。そのシートを活用して業務の見直しを進め、部員の勤務時間外在校時間は、月平均で昨年度より約2割減少した。
<p>教育支援部</p>	<p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催している難聴学級担当者対象研修会に加え、今年度から事業所等との連絡会を始めるなど、地域の学校や関係諸機関との連携を拡充することができた。また、難聴理解授業の実施、聴覚支援だよりの発行を通して、地域の学校でのよりよい環境整備の一助に向けて取り組み始めている。 ・校内の教育環境整備については、研修・自立活動部との連携を強化してさらに取り組んでいきたい。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育支援部としてこれまで作成してきた教員向けの研修資料、授業資料、児童生徒向けの資料などをサーバーに整理し、誰でもすぐに閲覧できるようにした。紙媒体の資料については、種類ごとにファイルを作成してまとめ、閲覧しやすくした。 ・校務会のペーパーレス化に取り組んだ。
<p>寮務部</p>	<p>【重点目標 1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染状況に合わせて感染症対策を実施し、安全に配慮をして寄宿舎行事を行うことができた。手指消毒や清拭、3密の回避を舎生に徹底し、舎生一人一人が感染症対策を意識して生活を送ることができた。生活上で課題がある舎生には、舎生が自分でできたかどうかを振り返るためのチェックリストを作成するなど、個々の課題に合わせて指導を行った。 <p>【重点目標 2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に舎生同士がお互いの良いところを伝えるようにすることで、お互いに認め合える環境づくりをした。舎生同士がお互いのことをよく見るようになったり、小さなことでも良い面を見つけたりできるようになった。 <p>【重点目標 3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しく寄宿舎指導員に一台ずつタブレットパソコンが配備されたことで、パソコンでの業務を複数の指導員で同時に進められるようになり、円滑に業務を進めることができた。